

ウォーキング

# 松坂城址を訪ねて

令和 6 年 2 月 17 日 (土)

1. ルート 近鉄松阪駅～愛宕川を下流へ～国道 23 号沿い～坂内川上流へ～  
鈴の森公園～松坂城～岡寺山継松寺～近鉄松阪駅  
12.0 k m (17,000 歩)
2. 参加者 伊藤利男・伊橋健治・喜吉 雄・高木 勉  
中村 衛・中村軍志・福本 泉・濱田 一  
8 名
3. ドキュメント

近鉄松阪駅の北口を出て松坂城址とは反対側の東方向に歩き始める。国道 166 号線(旧国道 23 号線)を横切って愛宕川の堤防道路に出る。この川は小さな川で松阪港に注いでいる。



水量の少ない愛宕川

堤防道路を歩く

40 分位歩いただろうか、国道 23 号に到達する。小休止を摂った後、車の騒音を避けて国道を歩くことなく静かな町中の小径を国道に沿って坂内川まで北上する。途中、立派な伽藍のお寺があったので拝観する。坂内川に到達するとここからは堤防道路を西に向かってコースを取る。この川も前方に見える山から流れ出ているにもかかわらず水量が少ない。冬枯れだろうかと思ふ。



西方寺の山門



坂内川



つぼみ膨らむ桜かな



伊勢街道に架かる大橋

この冬は気象庁の予報通り暖冬で随分と気温が高く過ごしやすい日が多い。この日も青空はないものの比較的暖かくウォーキング日和となる。堤防の桜も今にも咲きそうな気配で今年の桜見物は早まりそうだ。出発してすぐに横切ったR-166と近鉄線路の暗渠を潜っていくと旧伊勢街道に架かる朱塗りの大橋の交わりに出る。さらに川に沿って西に進みスーパーに立ち寄り昼食会場の鈴の森公園に到達する。この「鈴の森公園」は元鐘紡の工場の跡地で現在は松阪市の公園となっていてレンガ造りの倉庫が残っているだけとなっている。



鈴の森公園



鈴の森公園内のレンガ造り

公園内の芝生にシートを敷いて座り込み、いつものように談笑をしながら昼食を摂る。一時間余りの時を過ごして今回の主目的地の松坂城址に向かって歩き始めると小高いところに石垣が見え始める。松阪の町は城下町であるとともに商業の盛んなところで三越の三井家の発祥地でもある。



松坂城址の石垣

## 松坂城址について

松坂城は標高 38m の小高い丘陵、四五百森 (よいほのもり) に築かれた平山城で 1558 年、秀吉から南伊勢 12 万石を拝領した蒲生氏郷が 3 年の歳月で完成させた。氏郷が会津若松へ移封後、この地は紀州藩の領地となり明治になるまで城代が置かれてきた。今は現存する建物はありますが豪壮な野面積みの石垣が残り、平成 18 年日本 100 名城に認定され、国指定史跡となっている。

松坂城の坂は土辺なのに松阪市は阪、なぜだろう。以前はすべて松坂であったそう。

松阪市ホームページより抜粋



松坂城の前に近づくると石垣が市道に迫り出しているほどに高く積み上げられていて往時の姿を思い浮かべると相当立派なお城だったので想像できる。石垣に沿って坂道を登って天守の建っていたところまで行き記念の写真を撮る。広場には小さな梅林があって今を盛りと白い花をつけていた。



天守跡で記念撮影



この武将は誰でしょう



小さな梅林



本居宣長旧宅(鈴屋)



岡寺山継松寺



鈴の文様のマンホール

広い城内を散策していると国文学者の本居宣長の旧宅が文化財として残されていて結構遠くからでも見学者が訪れているとのことである。旧宅は『鈴屋(すずのや)』と呼ばれて宣長が愛用した鈴が松阪駅前のモニュメントとなり、マンホールの文様に描かれ、昼食を摂った公園も『鈴の森』であったそして鈴屋最中も名物である。

松坂城址の雰囲気を楽しんで街中を通り、松阪駅近くの厄落としのお寺として知られている岡寺山継松寺にお参りする。初午の日には老若男女で賑わうらしいが今日は静かな境内であった。3月のウォーキングでの再会を約して電車に乗り込み帰路に就く。